

第40回公演「久美・美容室物語」 団長の独り言

劇団ふあんハウスと私 福岡美佳

劇団ふあんハウス「団長の独り言」をご愛読の皆さん、及びこんにちは！
〇週に一度「週替わり日記」を寄稿しております福岡美佳です。
今回は何と、団長に代わって私が「独り言」を書かせていただくことになりました。題して「福岡美佳の独り言」、行ってみよう！

私と劇団ふあんハウスとの出会いは、2017年の1月でした。
当時私は、「劇団扉座」の養成機関である「扉座研究所」の研究生で、2月に催される卒業公演のチラシをプログラムに挟ませていただくために、ふあんハウスの公演「すぼとらいと in 板橋」の前日、板橋区立文化会館に足を運びました。

その時はふあんハウスのことを全く知らなかったのですが、「目の不自由な人も楽しめるお芝居を作っている」「明日の公演は既に満席」ということを伺い、「これはすごい、いつか観に行かねば」と思っております。

それから一年後、念願叶って2018年1月に「ふきのとう物語 in 板橋」を観に行くことができました！

小さな人形劇団を舞台に繰り広げられる人間ドラマ、ストーリーや役者さん達の演技は勿論、舞台セットや劇中で使われている人形もすごく凝っていて、Amatiasさんのピアノの生演奏も素晴らしく、それに感動すると同時に「私もこの舞台に立ちたいなあ」という思いが強まり、終演後に団長にメールで連絡を取って、次の〇月の舞台の出演者募集に応募したい旨を伝えました。

団長からすぐに返事をいただき、お会いして次回公演「夢めぐり」の台本を読ませていただきました。

緊張もあって当時のことはあまりはつきり思い出せないので、台本の世界観に引き込まれて楽しくて夢中になっていたことだけはよく覚えています。

そのまま出演が決まり、お芝居の舞台となるクリーニング屋さんのお嫁さん「多恵」を演じることになりました。

お芝居を始めたのが社会人になってからということもあり、経験が浅く手探り状態でしたが、劇団の温かい雰囲気にも助けられ、未熟ながらも大過なく演じることができました。

家族経営の古いクリーニング屋さんを舞台としたドラマで、共演者が、役の上だけでなく本当の家族のように感じられて、昭和の古い家を模した舞台セットに身を置くとほっこりとした気持ちになりました。

それ以来、ふあんハウスの公演にずっと参加し続けています。

その後も、給食のおばさん、小説家志望の清掃員、そして〇月の「久美・美容室物語」では新人美容師という役をいただき、気付けば「回目の舞台となりました。

昭和感漂うノスタルジックな世界観、笑って泣けるほっこりした人間ドラマ、見ている元気になれるハッピーエンドは、どの作品にも共通しているふあんハウスの良さだと思います。

次回は秋（10月か11月）、「久美・美容室物語」を再演予定です。更に磨きをかけた「星丘ゆり」をお見せしたいと思っています。

また、更にその次は来年2月、「人生芸夢（じんせいげいむ）」という、温泉旅館が運営する劇団を舞台とした人間ドラマで、2003年と2009年に上演された作品だそうです。

団長曰く「自分が書いた中で最も好きな作品」とのこと、どんな作品なのか、

どんな役をいただけるのか今からワクワクします！

実は私はあがり症で、緊張して体が固まってしまったり声がうわずってしまったりすることがよくあり、特に役作りをしていて迷いがあると、それが顕著に出てしまいます。

どんな役を演じる時でも、「この役をどうやって演じればいんだろう？」と迷い苦しむことが多く、まだまだ修行が足りないと感じています。

でも団長の演出や指導、他の共演者からの助言やサポート、観に来て下さる方や気にかけて下さる方の励まし等によって毎回助けられています。

少しでも経験を重ね、お芝居の引き出しを増やしてしっかりとした役作りをし、自信を持って演じられるようになりたいと思っています。

これからもふあんハウスで経験を重ね、役者としても人間としても成長を続け、素晴らしい舞台を作っていきたいと思えます。

今後どんな作品を演じることができているのか、どんなお客様や共演者に出会えるのかとても楽しみです。

劇団ふあんハウス共々、これからも応援していただけたら幸いです。